

1. 奥能登地域 広域都市圏マスタープラン

1) 地域の概況

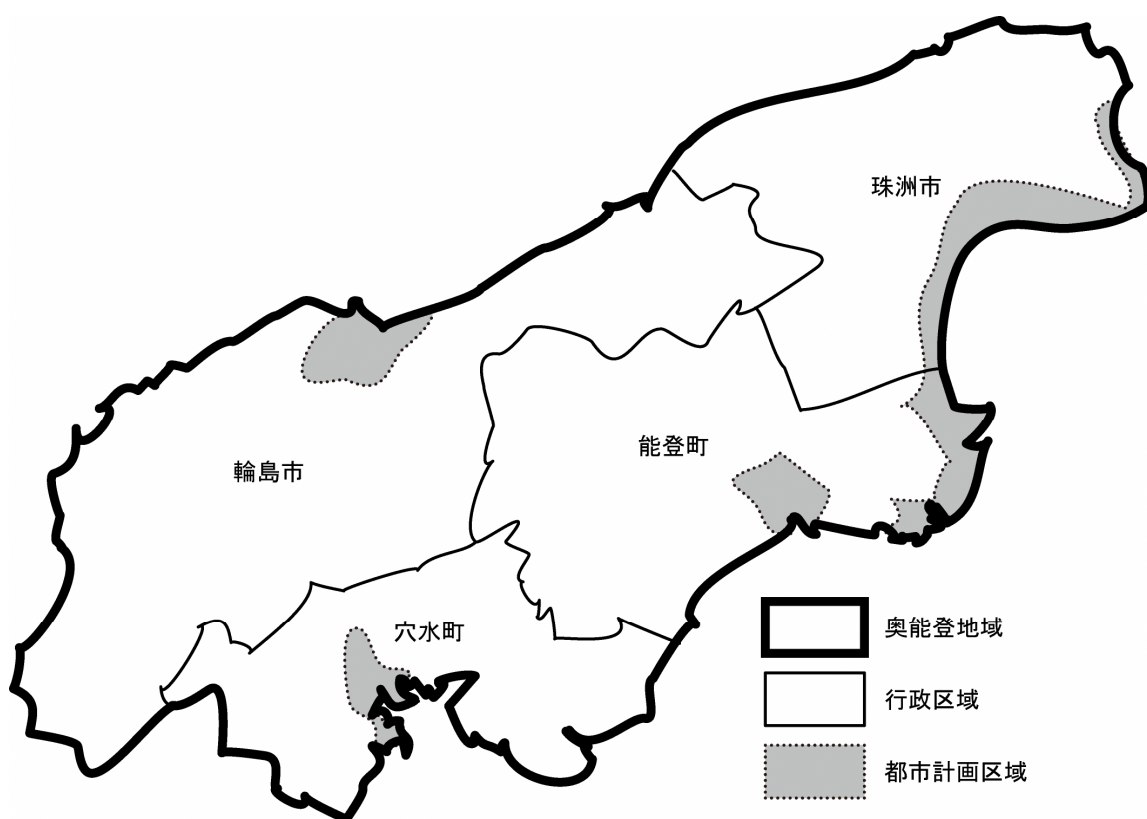
(1) 地域の構成

奥能登地域は、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町の2市2町で構成され、全市町で都市計画区域が指定されている。

内浦都市計画区域、能都都市計画区域については町村合併に伴い、今後は一体の都市として総合的に整備、開発及び保全を図るため、一つの都市計画区域として取り扱う。

都市計画区域の範囲及び規模は、次の通りである。

都市計画区域名	市町名	範囲	面積
輪島都市計画区域	輪島市	行政区域の一部	1,376ha
珠洲都市計画区域	珠洲市	行政区域の一部	2,980ha
穴水都市計画区域	穴水町	行政区域の一部	1,080ha
内浦都市計画区域	能登町	行政区域の一部	1,948ha
能都都市計画区域			1,294ha



(2) 地域の概況

本地域は、能登半島の北部に位置し、周囲を取り囲む美しい海岸線の多くは能登半島国立公園に指定され、世界農業遺産「能登の里山里海」にも認定されている。平坦地が少なく、約75%が山地・丘陵地で構成されているが、古代より大陸文化交流の玄関口として栄え、海上輸送の寄港地となるなど重要な地域であり、豊かな自然景観や守り継がれた歴史・文化、豊富な食文化、輪島朝市、揚げ浜式の塩田などの地域固有の資源を有している。

また、本地域では県都金沢市と能登半島を結ぶのと里山海道や能越自動車道、珠洲道路の整備が進められており、のと里山空港との一体的な活用により、三大都市圏及び富山県、石川中央地域、中能登地域等との交流・連携の拡大と一層の地域振興が期待されている。

本地域の人口は、平成27年現在で68,195人であり、過去20年で3万人近い減少が見られる。また、65歳以上人口は44.8%を占め、県全体の27.5%と比較しても高齢化の進展は著しいものとなっている。人口の流動は、山地・丘陵地が大半を占めることから、海岸線に沿った流動が中心となっており、日常的な生活圏は自市町内が中心となっている。なお、本地域の市町で奥能登広域圏事務組合を構成し、広域行政サービスや消防などの分野で広域行政として連携しており、日常的なつながりを強くしている。

(3) 地域の主要課題

本地域は、恵まれた自然環境に加え、その立地条件から海路の拠点となる港を中心に市街化が進んできた。しかし、若者の流出と高齢化のさらなる進行、観光を含めた地域間交流の衰退、就労機会の不足といった問題が生じている。

このため、のと里山空港や北陸新幹線による大都市圏からの時間距離の短縮効果を背景として、地域連携のネットワーク基盤づくりや美しい里山里海景観、歴史・伝統・文化などといった地域の強みを活かした観光拠点の創出、就業の受け皿となる産業対策や就業環境の整備など、本地域の活性化に向けて地域全体の活力の維持・向上が求められている。

また、地域の経済・活力を維持・発展させるためには、U・Iターンや都市と地方での二地域居住の推進、安心して子供を産み育てられる社会環境の整備など、特に若年層を中心とする定住及び都市圏からの移住環境づくりが不可欠となっている。さらに、高齢社会に対応した、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、公共交通の確保・維持や歩行者・自転車にやさしいみちづくり、バリアフリーの環境整備等の充実が求められている。

そのため、これらの課題の解消にあたっては、多様な主体の連携・協働によるコミュニティの持続・再生などを併せて進めることにより、地域が主体となった総合的な生活環境の充実が求められている。

2) 地域づくりの基本理念

本地域は、海岸線の多くが能登半島国定公園に指定され、袖ヶ浜海岸や鉢ヶ崎海岸、九十九湾などに代表される良好な自然環境が連続している。また、日本海に面した急傾斜地に広がる白米千枚田をはじめ、ユネスコ無形文化遺産「あえのこと」、「青柏祭の曳山行事」や日本遺産「キリコ祭り」等の守り継がれた文化など、自然や歴史・文化に根付いた地域資源が数多く存在していることから、世界農業遺産「能登の里山里海」に認定されている。

これらの恵まれた地域資源やこれまでに整備された都市基盤等を最大限に活かすとともに、多様な主体の連携・協働により、次の基本理念に基づき「能登の里山里海など豊かな自然と歴史に育まれたゆとりと交流のあるまちづくり」を進め、石川県の北の玄関口として交流人口の拡大による地域の活性化を図る。

(1) 里山里海の豊かで多様な資源の保全・活用による交流環境づくり

「能登の里山里海」が織りなす美しい景観や良好な自然環境、生物多様性、農林漁業、歴史、伝統工芸産業、文化などの地域資源を保全・活用する。

また、優れた地域資源を積極的に活用し、スロートゥリズム等の観光資源の発掘・磨き上げとともに、駅や空港などの交流拠点での情報発信や地域の人々との交流の場などの環境づくり、魅力ある風景を楽しむ「いしかわ風景街道」の整備やいしかわ景観総合計画による広域的・連続的な景観形成などを進め、交流人口の拡大と地域活力の維持増進を図る。

(2) 交流と連携を支えるネットワークづくり

のと里山海道、能越自動車道（輪島道路、穴水道路）、珠洲道路（(一) 柏木穴水線、(主) 珠洲穴水線、(主) 内浦柳田線）、門前道路（(主) 穴水門前線）、輪島道路（(主) 七尾輪島線）、一般国道 249 号などの多重な道路網の整備・充実を図るとともに、北の玄関口であるのと里山空港の利用を促進しながら、半島地域全体の広域交流の促進や災害時の代替性・多重性の確保を図る。さらに、本地域の都市間の交流を強化するため、きめ細かい交通網の整備・充実とともに、観光に資する「寄り道パーキング」の整備や「道の駅」の活用を図る。

また、社会基盤の耐震化や適切な維持管理による長寿命化を図るとともに、地震・津波、風水害・雪害及び土砂災害等の自然災害並びに大規模火災及び原子力災害等に対し、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策の強化を図る。

(3) 自然と調和した活力ある産業づくり

食・健康などと連携した農林漁業の活性化、輪島塗・珠洲焼などの伝統工芸の振興を図るとともに、農林業生産基盤とのバランスや景観・自然環境の保全に配慮しつつ、計画的な産業用地の確保を図る。

また、北陸新幹線や能越自動車道（輪島道路、穴水道路）、のと里山空港、輪島港などの陸・海・空の広域ネットワークの整備を活かし、地域全体の魅力を全国に発信し、観光産業の展開・振興を図る。

(4) 地域資源を活かした移住・定住環境づくり

地域に根づいた歴史や伝統・文化を活かしながら、文化の醸成空間としてまちなかの再生を図る。

また、生活に必要な都市機能をまちなかや地域の拠点に集約するとともに、日常生活を支える公共交通の確保・維持、空き家の適切な維持管理と活用等により既存の生活環境を改善しながら、U・Iターンや二地域居住の受け皿づくり、里山里海を活かしたグリーンツーリズムを進めるなど、魅力ある移住・定住環境を整備する。

(5) 豊かな自然を活かした地域主体のまちづくり

住民やボランティア、NPO等の多様な主体が一体となり、多様な地域資源を保全・活用しながら、郷土への愛着や誇りを育むとともに、コミュニティの持続・再生及び地域のつながりの形成を図る。これらを支えるために医療や介護、住まい、生活支援サービスが連携し、いつまでも安心して暮らせる環境づくりを進める。

3) 地域構造の基本方針

奥能登地域は、人口減少及び高齢化が顕著に進んでおり、本地域の活力を維持・向上するためには、里山里海の豊かな自然や地域に根ざした生活文化を保全・活用するとともに、輪島塗をはじめとした伝統工芸産業や農林水産業と連携した食・健康等をテーマとした観光振興を図る。

また、観光拠点の創出や「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想の着実な推進による交通基盤の機能維持・向上による時間距離の短縮を図り、定住促進や交流人口の拡大を進める。さらに、多様な地域資源や空き家等の既存ストックを活用した都市と農山漁村との交流の促進、魅力ある移住・定住環境を創出するとともに、コミュニティの持続・再生などにより、地域の活力を育む。

(1) 拠点となる都市

① 輪島

輪島では、輪島塗などに代表される伝統工芸産業の振興を図るとともに、輪島らしさを代表する特徴的な街並み景観の向上、輪島港マリンタウンをはじめとする良好な居住環境を活かした新たな魅力を創出し、観光交流型の拠点形成を図る。

② 珠洲

珠洲では、美しい海浜環境や豊かな自然環境、地域に根ざした生活文化等の地域資源や既存ストックを活かしながら、健康で歩いて暮らせるにぎわいのある拠点形成を図る。

③ 能登

能登(内浦、宇出津、柳田)では、移住・定住の促進による人口の定着と交流人口の拡大に向けて、地域文化の継承・創造と合わせた生活関連施設の整備により、ふるさと交流拠点の形成を図る。

④ 穴水

穴水では、豊かな自然環境に恵まれた奥能登地域のゲートウェイとして、広域的にも重要な役割を担う区域であり、交流人口及び定住人口の拡大に向け、地域文化の継承・創造と合わせた生活関連施設の整備により、ふるさと交流拠点の形成を図る。

(2) 主に都市計画区域内における土地利用

① 市街地ゾーン

農業的土地利用との調和を図りながら、健康・福祉・商業などの都市機能や居住を誘導し、適切な密度を維持することにより、高齢化が進む中においても安心して暮らせる市街地を形成する。

また、都市基盤の計画的な整備・改善及び適切な維持管理を進めるとともに、空き家・空き地等の低未利用地や既存ストックの有効活用を図りながら、住居、商業、工業、緑地等の土地利用を計画的に配置・誘導し、安全・安心な都市環境を形成する。

② 農業ゾーン

市街地ゾーン周辺の田園地域では、都市と農地・山・海と一体となって形成される重要な田園景観や眺望景観の維持・保全を図る。また、既存集落では公共交通などにより市街地とのアクセスを確保し、集落の活力維持を図る。

③ 自然保全ゾーン

能登半島国定公園に指定される沿岸部や地域の骨格を形成する山地・丘陵地などの自然環境を保全・活用するとともに、自然災害の防止や安全確保の機能を維持する。

(3) 地域の拠点

① 産業拠点

輪島市臨空産業団地では、のと里山空港に隣接する利便性を活かした環境整備により、企業誘致を推進する。

② レクリエーション拠点

一本松総合運動公園やマリントウン、九里川尻湾総合運動公園、鉢ヶ崎総合公園、由比ヶ丘公園、遠島山公園など、地域住民の運動や休養等のレクリエーションの場である運動公園や総合公園等の公園緑地は、レクリエーション拠点に位置付け、地域住民の憩いの場、交流の場として整備・充実し、適切な維持管理に努めるとともに、防災拠点としての活用を図る。

(4) 連携軸

① 広域連携軸

のと里山海道、能越自動車道（輪島道路、穴水道路）、珠洲道路（(一)柏木穴水線、(主)珠洲穴水線、(主)内浦柳田線）等の利用により、三大都市圏及び富山県、石川中央地域、中能登地域等との広域的な連携を強化する。

のと里山空港は利用促進とともに、にぎわい創出による地域拠点としての活性化を図る。

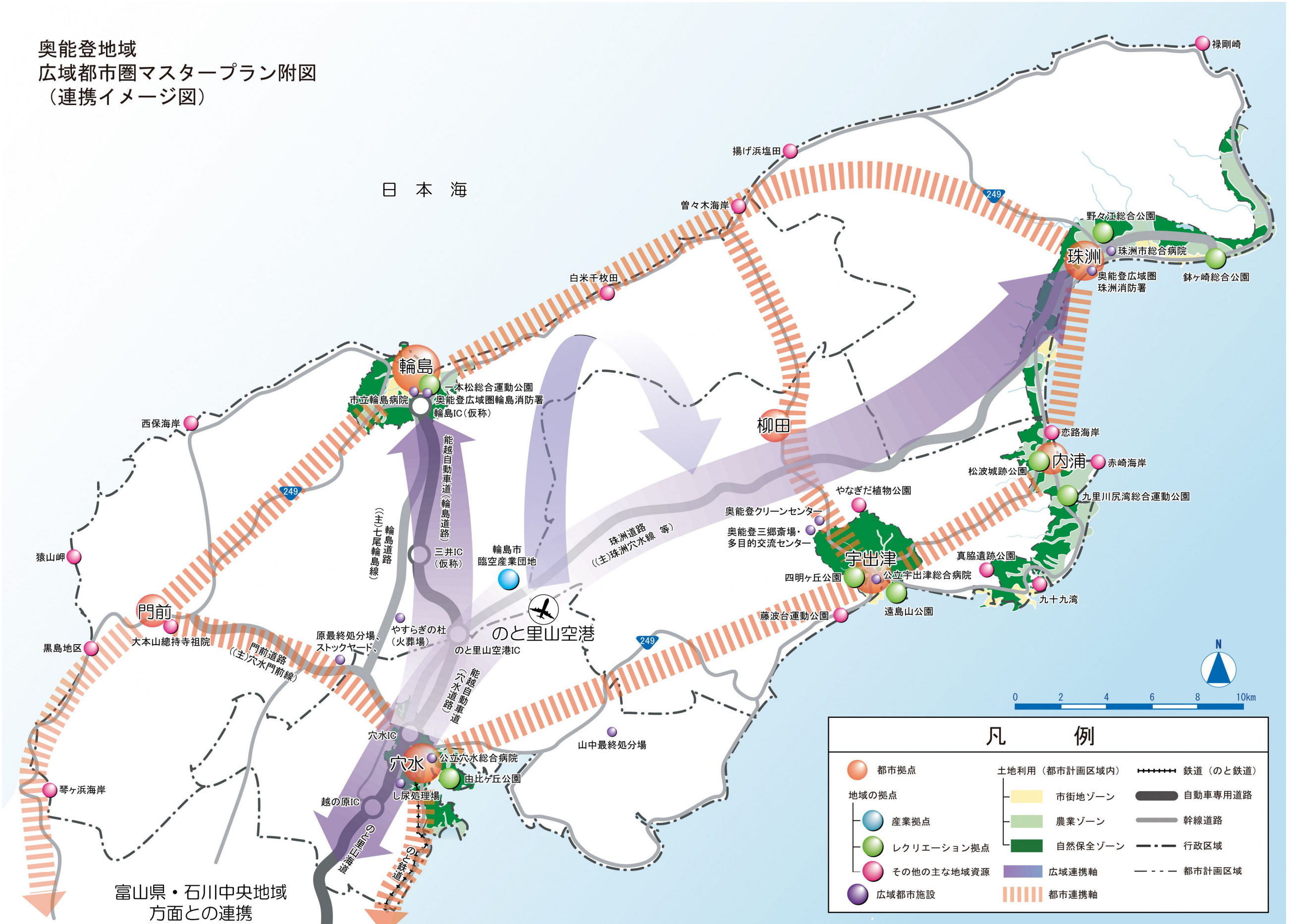
② 都市連携軸

一般国道 249 号、門前道路（(主) 穴水門前線）、輪島道路（(主) 七尾輪島線）や奥能登横断道路（(主) 宇出津町野線）等の幹線道路の利用により、本地域内の各拠点間の交流・連携を強化し、地域の一体性を高めるとともに、隣接地域との連携を強化する。

(5) 広域都市施設

ごみ処理施設やし尿処理施設、消防、病院などの広域的な都市施設は、自治体間の相互連携や適切な役割分担を図るとともに、施設の機能更新や維持管理により、地域住民の生活の安全性や快適性を確保する。

奥能登地域
広域都市圏マスタープラン附図
(連携イメージ図)



日本海

富山県・石川中央地域
方面との連携

凡 例		
● 都市拠点	土地利用 (都市計画区域内)	—— 鉄道 (のと鉄道)
● 地域の拠点	■ 市街地ゾーン	—— 自動車専用道路
● 産業拠点	■ 農業ゾーン	—— 幹線道路
● レクリエーション拠点	■ 自然保全ゾーン	—— 行政区域
● その他の主な地域資源	■ 広域連携軸	—— 都市計画区域
● 広域都市施設	■ 都市連携軸	



奥能登地域